

第1回 里地里山保全・活用検討会議資料

重要里地里山の選定の考え方について

環境省 自然環境局
自然環境計画課
平成20年11月12日

(1) 選定の対象及び視点

選定地域の位置づけ

次のア、イのどちらかを満たすこと。

ア 生物多様性、景観、文化などの観点から、地域を代表する里地里山

イ 野生動植物の保全上特に重要な里地里山

選定地域の要件

次のア、イのいずれも満たすこと。

ア 候補地の面積は100ヘクタール以上、ただし大都市の市街地周辺については10ヘクタール以上

イ 候補地域の自然環境に、二次林、草地、農地、ため池、水路等の異なる要素が原則として複数含まれること。

(2) 選定の手順(案)

里地里山保全・活用検討会議で、選定の枠組み、評価の視点等を検討。

の検討結果をもとに推薦要領を作成し、下記ア～ウの推薦により候補地を収集。

ア 関係各省からの推薦(関係団体からの推薦も含む)

イ 都道府県・市町村からの推薦

ウ 環境省が選定した有識者からの推薦

候補地を(1)の評価の視点に照らして事務局で確認・整理。

必要に応じ事務局が市町村の意向を確認。

里地里山保全・活用検討会議で候補地を審査し重要里地里山を選定。

重要里地里山の選定の枠組及び評価の視点

候補地の推薦

都道府県・市町村
有識者
関係各省
から推薦

確認

推薦要件に合わないもの、
推薦理由が不明確なものの
篩い分け 等

候補地一覧表 の作成

絞り込み

里地里山の多様な価値や持
続可能性の評価 等

重要里地里山 選定地域(案)の作成

重要里地里山として選定する地域の確認

(評価の観点)

里地里山環境とし
てのまとめ

(検討の視点)

面積

100ヘクタール以上
ただし、大都市の市街地周辺については10ヘクタール以上

環境の多様性

二次林、草地、農地、ため池、水路等の環境が原則として
複数存在

候補となる里地里山の内容の評価・確認

(評価の観点)

生物多様性の保全

(政策的なねらい)

生物多様性保全上重要
な里地里山を抽出・保全

(検討の視点)

・レッドリスト掲載種の生息
・その他多様な動植物の生息環境

美しい景観
(ふるさと原風景)

地域ごとの多様なふるさと
景観の体系的な保全

観光資源等としての評価
自然公園等の指定

伝統文化・伝承の基盤

多様な伝統文化の維持

里地里山環境と結びついた
伝統的生活文化の存在

環境教育、保全活動の
フィールド

環境教育・保全活動の促進、
活動拠点の体系的配置

活動の存在、活発さ

里地里山環境の維持
再生を支える基盤

地元による自律的維持の可能性

地元住民による(伝統的)里山管理の状況とそ
の継続可能性

農林業等の発展可能性

農村集落の安定性・活力
農林業の経営安定化や新たな付加価値創出の
可能性

保全再生の担い手の状況

都市住民等による保全再生への取組状況
取組を支える新たな仕組みの存在

今後のスケジュール（案）

第1回 里地里山保全・活用検討会議

選定の対象及び視点、手順を決定

11月12日

都道府県、市町村、専門家、関係省の協力を得ながら、候補地を収集・整理。

11月
～1月中旬

- ・より多様な推薦を受けるため、周知・PR
- ・推薦地域の内容の確認
- ・追加データの収集
- ・応募状況の整理

第2回 里地里山保全・活用検討会議

候補地の応募状況の確認、絞込み方法の検討

1月下旬

候補地の整理、分析、確認

2月

- ・特性によって候補地域を整理、カテゴリー分け
- ・追加調査により、データを補充
- ・関係市町村の意向確認

第3回 里地里山保全・活用検討会議

重要里地里山の選定

3月下旬

最終候補地リストの作成

- ・候補地概要調書の作成

重要里地里山の公表

